

# 2019年度 須坂市立 仁礼小学校 グランドデザイン

【須坂市教育の基本理念】  
「地域の子どもは地域で育てる」  
教育の充実

- ① 須坂を好きになる教育の推進
- ② 基礎学力の向上
- ③ いじめ防止対策・不登校対策の推進
- ④ 特別支援教育の充実
- ⑤ 食育の推進
- ⑥ 学校施設・設備等教育環境の整備
- ⑦ 教育の機会均等の確保
- ⑧ 学校と家庭・地域の連携強化

【本校児童の姿】  
・素直で決められたことはまじめに取り組むことができる  
・多くの友だちとかかわることに抵抗がある児童がいる  
・負荷のかかる場面でくじけそうになる児童がいる

学校教育目標 『よく学び よく遊び たくましく』

～自己肯定感を育み自信や誇りを持つために～

めざす児童の姿

粘り強く学習や活動に取り組む子ども(わからないことを大切に、伝え合う子ども)

大勢の人とかかわることができる子ども

気持ちのよい挨拶や返事、相手のことを思いやることができる子ども

【学校経営の重点】

1 学力の保障

2 集団適応力の育成

3 個に応じた自立に向けた支援

4 安全・安心な学校づくり

今年度のめざす児童の姿 具現に向けた 重点的な活動・取組

重点活動①自ら進んであいさつ ②無言清掃 ③歌、歌声が響く学校

④ドリル・学力定着をより図るために内容の工夫

【学力の保障】

(1) 日々の授業の充実

- ① ねらい、めりはり、みとどけ(省察)を意識した授業づくり
- ② グループ学習や自分の言葉で表現しあう場面を重点的に位置づける、見通しが持てる授業展開、構造的な板書、学び方の習得を意識した授業づくり(授業のユニバーサルデザイン)
- ③ 具体物や視聴覚教材(デジタル教材等)の積極的な活用
- ④ 全ての教室で、授業の基本的な姿勢の徹底と学習習慣の形成
- ⑤ 英語を活用してコミュニケーションをする雰囲気醸成
- ⑥ プログラミング(的思考)教育と各教科等の関連一指導計画作成

【今年度の具体的実践】

ア 「教えて考えさせる授業の算数授業を通して」(10/23 全校研究)  
講師 東京大学大学院教育学研究科教授「市川伸一先生」  
イ 食育を通して命の教育の実践 ウ 環境教育、金融教育の実践

- (2) 放課後学習室(学習支援ボランティア)、夏休み学習室の活用
- (3) 家庭学習の充実に向けて(家庭学習の手引きを使って児童・保護者と連携)
- (4) 体力作り～集団での遊びや中核活動(体育集会、体育レク等)～

【集団適応力の育成】

(1) 認め合う集団づくり

(学級活動、児童会活動、体験活動の中で大切に)  
・対人(異学年)ゲームの積極的導入

(2) 道徳教育・人権教育の充実  
・道徳項目「主として他の人との関わりにおいて」を重点に

(3) 幼保・小中連携を通しての支援  
(保育園と小学校の交流、小中学校職員がそれぞれ小中学校の授業を参観、基本的な生活習慣・学習習慣の徹底 等)

【個に応じた(多様性)自立に向けた支援】

(1) 特別支援教育、福祉教育の充実「気づいて、寄り添い、受け止めて、信頼・安心をつくりあげる(つなげよう)」

(2) キャリア教育、総合的な学習でつきたい力を明確にし、探究的な活動計画・実践・評価

(3) 支援学校や関係機関等と連携しチームによる支援(教育相談、関係者会議、支援会議)

(4) 多くの人との関わりを意識した活動や取組

【安全・安心な学校づくり】

(1) いじめを許さない学校(定期的なアンケート調査、Q-Uの研修、校長講話等)

(2) 環境整備の点検・充実(PTAやボランティアとの連携)

(3) 危機管理の意識向上  
通学路の安全確認、避難訓練、防犯訓練、情報教育等を通して危機管理の意識向上と安全教育の充実

(4) 体罰、暴言等の根絶  
学校だより、学年だよりの発行、学校評価の活用

(5) 情報発信の充実  
信州型CSやSS制での導入

研究テーマ「自ら自信を持って活動する仁礼っ子の育成」～友と関わり合いながら学びを深める授業の創造～

本校児童にさらにつけたい力①基礎的な学習の定着 ②論理的な思考を伴った追究力 ③自ら課題を見だし情報交換しながら粘り強く追究したり創造したりする力

教科	運営のテーマ	具体的な取組	教科等	運営のテーマ	具体的な取組
国語	・国語に関する関心を深め、よく聞いたり読んだりしながら自分の思いを素直に表現する	・しっかりと聞く、丁寧に書くことを身につける・読む、書く、話す、聞く、言語など年間を通して継続できるドリル問題を準備し「スタディタイム」等を活用し基礎学力の定着を図る	家庭	・家庭の一員として自覚を持ち、家庭生活をよりよくしていくための知識・技能を習得し実践的態度が身につくようにする	・家庭生活の大切さ、楽しさに気づかせる ・日常生活に必要な基礎的な技能を身につけさせる
社会	・子どもが社会事象に関心をもち、友と関わりながら粘り強く課題を追究し見方考え方を広めていく	・地域社会の仕組みや地域産業の素材研究と教材化 社会見学や調査活動、体験的学習等を生かした仁礼小の年間指導計画作成 ・社会事象との出会わせ方、表現力育成、終末場面の工夫	体育	・運動に親しませ、健康増進と体力の向上を図り楽しく明るい生活を営む態度を育てる	・筋持久力と全身持久力の向上を図るため、日常的(休み時間、体育レク等)に運動に親しめるようにする ・学級の枠を外したTT方式の工夫につとめる・5分間マラソン(5月、12月)の実施や縄跳び
算数	・数量や図形について算数的活動を通して基礎的な知識と技術を習得させ、意欲的に数理を追究する。・日常の事象について見通しを持ち筋道を立てて考える	・前時までのつまずきの把握⇒本時の学習課題の明確化⇒本時の学習のまとめ、スタディタイムの有効活用、基礎基本となる計算問題、思考力を磨く学習問題の作成と答え合わせ・教材の発掘と様々な教材を活用(NHK教育番組等)	外国語活動	・外国語(英語)を通じて、日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深め、外国語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる	・全校児童が英語の音源に触れる機会を設定する ・ALTとどの学級児童も給食を食べるようにする ・英語を用いてコミュニケーションを図る楽しさを体験できるようにする⇒仁礼小の外国語活動カリキュラムを作成していく
理科	・様々な自然科学の事象に興味関心を持って、友との関わり合いを大切に粘り強く課題を追究し科学的な見方・考え方ができる	・子どもの課題意識を大切に課題解決学習を中心に行う・実験や観察を通じた体験学習の上に立ち探求の方法や知識の習得をさせる・須坂市カリキュラム、信濃教育会出版の教師用指導書も参考・夏休みを通して1人1研究	道徳	・自らを問い、友とかかわりながら自分の見方・考え方を深め、しっかりと自分で判断していく子ども	本校で重点化を図る内容項目 ○主として他の人とかかわりに関すること ・あいさつ、言葉遣い、おもいやりの心 ○主として集団や社会とかかわりに関すること ・精一杯の掃除、約束や決まりを守る、人・こと・ものを大切にする(環境教育、福祉教育等の体験活動との関連を大切に)
生活1年2年	・具体的な活動や体験を通して身近な社会や自然、対象に関心をもち自ら願いをもち働きかけたり、問題意識を持って調べたり考えたり表現したりできる・支え合い友だちや自分の良さに気づく	・地域にあった教材づくり、年間計画を作成し授業を展開する ・子どもの作品や活動の記録を残していく ・活動を通して気づいたことや楽しかったことを言葉や絵、動作、劇化等で表現する機会を大事にする ・資料、用具を整え管理する	特活	・児童が自分たちの生活を自発的・自治的に話し合い、解決していくことができる	・学級活動、児童会活動、町別子ども会の計画、実行、認め合い、振り返りを大事にする ・短学活の有効活用・Q-U等を活用しての支援 ・地域の方や異学年・異年齢の交流を大事にする
図画工作	・表現や創作等の活動を通して、豊かな一人一人の創造性と造形表現の力を養うとともに美的感覚を高め自然を愛好する情操豊かな心を育む	・驚きや表現しようとする意欲を沸かしたせる題材との出会いを工夫する ・表現方法をたくさん示し見通しを持って活動できるようにする ・良さを認め合う鑑賞の工夫 ・校外の作品展も利用し幅広く作品が評価・鑑賞されるようにする	特支教育	・共に学び活動することを通して、お互いの理解を深め信頼の上に立って認め合い助け合いお互いに伸びていくことができる	・生活力、学力の向上のための支援方法・家庭との連携 ・どの子にとっても生活しやすく学びやすい環境づくり(授業のユニバーサルデザイン化)
音楽	・音楽を愛好し、自ら表現しようとする	・日頃から教室における音楽を大事にして歌声づくりを心がけ、歌うことに抵抗がないようにする ・1日一回歌うことを呼びかける ・音楽集会や行事の前に学年音楽の時間を設けお互い聴き合い歌いあげる喜びを体得する	総合キャリア	・自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる	・地域社会に飛び込んで、主体的に課題を持って取り組むようにする ・探究的な活動となるように意識する
			安全健康食育	・児童自らが食や健康、安全への関心を高め心身の健康保持増進に努められるように健康・食育・安全教育を行う	・健康診断、身体測定の実施及び実施 ・安全教育、性教育の実施・食育と命の教育 ・「自尊感情」を育てることを意識する。
			人権教育	・互いの良さを認め合える学級づくり、授業づくり人権教育旬間6月、月間11月	・各学年目標に照らした年間の指導計画や振り返り ・東三校人権教育研修会を中心にした職員研修

※Ⅰ【教職員の指導力向上に向けた校外研修】

- ① 全校研究(教えて考えさせる授業)、算数公開授業を通して
- ② 授業や教室環境のユニバーサルデザイン化に向けてのOJT
- ③ 職員会議の時間を活用したミニ研修(ア食育 イ発達障がい理解と支援)
- ④ 東三校人権教育研修会 等

【家庭・地域との連携】

- ① 「児童の良さ」を認め、勇気づける
- ② 「児童の良さや姿」を伝え合う

※Ⅱ【検証方法と評価の観点】

[検証方法—全国学力学習状況調査(6年)・総合学力検査(2年から6年)・年2回のいじめ調査・Q-U(年2回)・学校自己評価・授業参観・日常の姿 等]

ア 全国・学習状況調査の質問紙(6年)

「家で自分で計画を立てて勉強している」について、あてはまる+どちらかといえばあてはまるが75%を上回る。(昨年度70%)

イ 全国・学習状況調査(6年)の正答率で、国語・算数の主として知識、主として活用が、全国比を上回るようにする。

ウ 児童の学校教育評価—「クラスは楽しく安心できる」について、あてはまる+どちらかといえばあてはまるが92%を上回る。

◇「粘り強く学習や活動に取り組むことができる、大勢の人とかかわることができる、挨拶・返事や相手のことを思いやることができる」を自己評価する。

エ 総合学力調査(5年・6年)—昨年度(4年・5年)よりD層の割合を減らす。